

質問項目

1. 待機児童

京都市では6年連続で4月時点の待機児童ゼロを達成していますが、年度途中入園については数十名の待機児童が発生しており、潜在的待機児童は4月時点でも数百名います。保護者は保活の苦勞なく希望する保育園に入れるように改善をして欲しいと考えており、潜在的待機児童や年度途中の待機児童ゼロを目標として頂きたいですが、待機児童問題に関するお考えを教えてください。

2. 保育の質

京都市では国の基準を上回る保育士配置基準を条例化し、保育の質の向上を図っています。ただ、国際比較や他の自治体との比較でみるとまだまだ保育士の配置の少ない状況です。また、認可保育所より基準の緩い小規模保育事業や企業主導型保育事業など施設も増加しています。保育士不足の深刻化による保育の質への影響も心配です。保育の質に関するお考えを教えてください。

3. 経済的負担

10月から3～5歳児の保育の「無償化」が始まりましたが、副食費の実費徴収が始まり、給食費は増額されました。京都市の0～2歳児の保育料は他市との比較では高額、多子減免の制度もきょうだい同時入所や世帯収入などの制限があります。保護者の経済的負担に関するお考えを教えてください。

4. 給食

給食費(3～5歳)については、これまで主食費のみの負担でしたが、「無償化」に伴い副食費の実費徴収が始まりました。主食費を含めて完全無償化を実現している自治体も多くありますが、京都市では主食費・副食費いずれも低所得者などの一部を除いて有償となっています。園ごとに給食費の金額が異なり、給食の内容に格差が出てくるおそれがあります。どの園に預けても安心できる豊かな給食がすべての子どもに提供されることが保護者の願いです。給食費の無償化や補助の拡大に関するお考えを教えてください。

5. 市営保育所

京都市の市営保育所の割合は全国平均を大きく下回っていますが、この間、民営化が進められています。障害児の受け入れ、地域での子育て支援、虐待児や保護者への支援、において市営保育所の役割の重要性は多くの保護者が実感してきましたが、市営保育所の縮小による影響が心配されます。今後の市営保育所のあり方について、さらに削減・民営化を進めるのか、増設を含めた見直しをしていくのか、公立と民間の役割や具体的な割合をどの程度とするかなどお考えを教えてください。

6. お布団、おむつ

保育園で子どもが使用するお布団やおむつの持ち帰りについては、保護者の大きな負担となっています。自転車の前後に子どもを乗せ、複数のお布団を抱えての通園は危険です。おむつについては衛生面から園での処分を行っている自治体もあります。お布団やおむつは保育に必要な備品ですから、園側の管理事務の負担にも配慮しつつ、保護者の持ち帰りの負担を軽減する方法を京都市としても検討するべきと考えますが、お考えを教えてください。

以上